信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。（会則第3条）

法政大學 社会学部 同窓会報
Vol.49

法政大学社会学部同窓会
発行人　髙橋 敏（同窓会会長）
編集人　吉川新吾（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学4号館社会学部A棟11階
TEL・FAX　042-783-2421
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140-1-63762

新年特別企画
「学生インタビュー」拡大版
4年生座談会

法政大学社会学部の学びの魅力とは？
そして、私たちが今、考えていること。

未来を見つめる企画で新年号の第一面を飾りたい。そんな思いから、来春卒業予定で新たに社会学部卒業生の輪に加わる4年生の座談会を企画した。社会学部同窓会は、若い世代も気軽に参加でき、在校生のニーズにも応える同窓会を目指している。そのために、何よりも大切なのは、対象となる層の気持ちをつかむことだ。そこで、教授会執行部の先生方に人選をお願いし、今の社会学部生の姿をお伝えする。学生たちには同窓会の活性化のアイデアも聞いた。

（聞き手＝髙橋敏会長）

メディア社会学科
福井　菜摘さん
（藤田真文ゼミ）

社会学科
成毛　恭平さん
（斎藤友里子ゼミ）

社会学科
久永　僚さん
（徳安彰ゼミ）

社会政策学科
後藤　たまきさん
（吉村真子ゼミ）

社会学部の学び、仕事で生かす

髙橋　みなさん、4年生ですね。社会人になるにあたっての抱負をお願いします。

成毛　採用内定を得たのは、企業間取り引きを主業務とするIT（情報技術）系企業です。新しい技術に刺激を受けたくて選びました。

後藤　ゼミではアジア地域研究に取り組み、卒論のテーマは「バングラデシュにおける女性の貧困と支援―マイクロファイナンスの可能性―」です。社会学部SAで2年次にトロント大学（カナダ）に3か月留学、国際交流する機会を得るなど国際分野を深く学んできましたが、社会人になるにあたっては期待と不安が半々です。来春から大手旅行代理店のグループ会社で法人営業に従事する予定です。

久永　無事卒業できたら、地元（高知県）に帰り、地方銀行に就職予定です。ゼミの課題では、「日本ハムファイターズが東京から北海道に移転したことで地域にどのような影響を与えたのか」という研究に取り組んでいます。とにかく、立派な社会人になれるように頑張ります。

福井　法政大学付属高校（旧法政一高）出身です。学部選択で社会学部を第一志望にしました。周りからは「多摩キャンパスなのに」と言われましたが、もともとマスコミに興味があり、メディア社会学科にどうしても入りたかったんです。周囲はメディアへの就職志望の友人ばかりですが、私は、マスコミよりもメーカーに興味を持つようになり、大手玩具メーカーで働くことにしました。楽しく前向きに仕事をしていきたいです。

刺激的な授業で視野が広がった

髙橋　社会学部の学びの魅力とは。好きな授業は？ゼミやサークル活動は？

福井　2年生になるとコースを2つ選ぶのですが、最初「メディア社会」と「メディア文化」を選んだら、「メディアだけではダメだよ」と指導されて、「メディア文化」と「人間社会」にしました。結果的にこの2つにして良かったな、と思っています。現代社会、宗教、物理学などと幅広く学べました。今の就職先選択にもつながりました。社会学部は刺激的な授業ばかりですが、とりわけ、水島宏明先生のテレビ報道の検証の授業には衝撃を受けました。ニュースは伝え方によってこんなにも受け取り方が変わってくるのか学びました。

久永　なんでもできるよ、というのが魅力でしょうか。入ってから学ぶ中身を選択し直せるのもいい。内容も幅広い。中学・高校時代はソフトボール、大学では野球サークルに所属していました。昨年までは副代表。今年、法政大学内の野球サークル大会で優勝したサークルです。印象に残っている授業は奥武則先生のジャーナリズム史の講義。今、朝日新聞は右からは左寄りとか言われていますが、戦時中は戦争を推進していたこともあることを知らされ驚きました。

後藤　幅広く学べるという点は魅力ですね。でも、どこかで、絞らないと迷いが生じてしまいます。ですから「7コース・8プログラム」制というのはとても良いと思います。私は岡野内正先生の国際社会入門で視野が広がりました。世界で起きている諸問題にアプローチする授業で、毎週ゲスト講師を招きます。アパルトヘイトやアイヌ問題も学びました。吉村真子先生にもここで出会いました。吉村先生の話に出てきた女性の自立を援助するバングラデシュのグラミン銀行のことは、授業後すぐに図書館で調べました。そして、2年次から吉村ゼミに入りました。

成毛　歴史の授業が好きですね。特に日本史。同じ日本なのに、時代が変わると社会が変わっていく。「当たり前」とか「正義」の中身も。そこで、卒論では「ただしさの変遷」の研究をしています。サークルは、生協学生委員会をやっていました。大学生協と組合員をつなぐ活動です。

現代をどう生きるか

髙橋　新しい時代をどう切り開いていくか。どかんと大きな夢を。

久永　生まれ育った高知県は今、人口減少に直面しています。高齢者が多い印象も。やはり、地方活性化に関心が向きます。高知県はお酒を飲みながら政治議論を楽しむ風土があり、僕もその雰囲気は好きです。将来は、政治家になりたいですね。

髙橋　銀行員から政治家へ。いいねえ。楽しみにしています。

成毛　情報社会がますます進化する中で、いかに人間が過ごしやすい環境をつくるか。テロのやり方もITで変わってきているので、セキュリティに注視していきたい。情報社会の今だからこそ、人間がどうあるべきかが重要。人間あっての技術だと思います。

福井　私は「自主マスコミ講座」に入っていました。メディアの世界のプロを目指すんだという周囲の人たちの勢いに圧倒されながら、自分がつくったものを人からすごいと思われたい。

（第二面へ）

会報50号記念行事の成功を

社会学部同窓会会長　**髙橋　敏**

社会学部同窓会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様にとって良い年でありますようお祈り申し上げます。

昨年の嬉しいニュースをお伝えします。社会学部4年生の青木智美さんがリオオリンピック競泳女子800mリレー決勝に出場（結果8位）。同窓会ではオリンピックに先立ち6月定期総会で激励セレモニーを執り行いました。残念ながら青木選手は合宿中のため、ゼミ担当の徳安彰先生からご挨拶をいただきました。また、同定期総会では坪田智夫駅伝監督からご講演をいただき、その後の懇親会では出席者から激励の言葉が多数寄せられました。同窓会としても昭和記念公園での予選会応援を企画中です。「やりたい事は山のようにありますが、マンパワー不足に悩んでいる現状があります。本年も会員の皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、正会員増員にご協力くださいますよう宜しくお願い致します。

社会学部同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。社会学部同窓会は、89年の設立以来、社会学部卒業生をつなぐ組織として活動を続け、この2017年には同窓会報が創刊以来50号を迎えることになりました。これを祝賀し、同窓会の皆様のこれまでの努力に敬意を表します。

社会学部は1952年の設立以来、社会に有為の人材を送り出す教育を充実させるべく、さまざまな改革を行ってきました。現在、3学科7コース・8プログラムというカリキュラムをさらに進化させる改革を検討しており、18年度からの実施をめざしています。

また、14年度のスーパーグローバル大学事業の採択を受けて、学部教育のグローバル化へ向けても、さまざまな施策に取り組んでいます。法政大学憲章に謳われた「自由を生き抜く実践知」を、学生がみずから身につけることができるよう、努めてまいります。

社会学部卒業生は、これまでで4万人をはるかに超えました。その一層の組織化にも、同窓会とともに取り組んでいきます。とくに、各教員のゼミの卒業生ネットワークの活性化と活用を、広く呼びかけたいと思います。

これからも、社会学部へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

カリキュラムはさらに進化

社会学部長
同窓会名誉会長　**徳安　彰**

（第一面から）

い自分に気づき、玩具メーカーへ。その会社の売り上げの半分はおもちゃ以外のアパレルや生活雑貨です。いろんな商品を私が開発し、自主マスで知り合った人たちにメディアの力で広めてもらうのが夢です。

後藤　人口減少の一方、企業のグローバル化はどんどん進みます。就職する会社は海外企業との合弁なので、海外とのやり取りがメイン。留学経験で得たバイタリティーを生かして、世界で活躍したい。仕事を頑張って、やがて結婚して、また、仕事を続ける人生を送りたいです。

人生の先輩の話を聞く機会も

髙橋　学部同窓会への要望、活性化へのみなさんの提案をお聞かせください。

成毛　学部同窓会があることは知っていますが、イメージがわきません。

髙橋　規約上、卒業生全員を会員とし、このうち年会費3千円を納入する卒業生で維持しています。卒業して最初の5年の年会費は1千円です。

成毛　年会費は3千円ですか。安いですね。もっと高いと思っていました。存在と会費の安さがもっと伝われば、会費を納入してきちんと入ろうという人は出るのではないでしょうか。

髙橋　社会学部の卒業生は約5万いるのだけれど、会費納入者はその中のほんの一部。その拡大が課題です。活動を活発にしていくにはお金と共に、人材も必要です。年に1、2回くらい、みんな集まろう的な何かをやりたいですね。

成毛　箱根駅伝の応援企画はあるみたいですが、野球応援は？

髙橋　まだそこまでは手が回らないという感じです。

成毛　自分はこの前の試合も見に行き、毎年、応援に行っています。応援席の補助があったりすると、個人的にもいいかな。

髙橋　神宮球場での応援はやっている学部同窓会もありますね。今後検討していきます。

後藤　就職活動中、自分と年齢が近い先輩から経験談を聞く機会はたくさんありましたが、先輩もまだ将来は見通せない時期です。そういうときに、つらい時期を乗り越えて、今なお活躍している年代の方のお話も聞きたいです。つらいことに直面したとき、その仕事をやめてしまうのか、耐えるのか、判断のポイントなども教えてもらえるといいです。

髙橋　ぜひやりたいですね。

会報を見てもらい、同窓会活動への要望を出してもらった。

久永　今まで知らなくて、何の恩恵を受けていないところに、急に入りなさいと言われても、何の実感もわかないというのが正直なところ。1学年か、2学年上くらいの仲のいい先輩が入っていれば、スムーズに入れるかも。

髙橋　学生時代から慣れ親しんでもらうことが大事だと思っています。ゼミとの関係が重要になる。先生方との連携を重視していきたいですね。

福井　キャリアセンター（現在の就職部）でOB・OG名簿を見て問い合わせをしようとしても、「この方は、連絡つかない」と言われるケースが多いです。キャリアセンターとの連携を強めて、先輩に連絡がつきやすくしてほしい。現役生が頼りにできる存在になって欲しいと思います。

髙橋　それはすごく重要な課題ですね。みなさんの意見は今後の活動に生かしていきます。学部同窓会を重視してくださっていて大変協力的です。共に学部同窓会の重要性を認識し、今後発展させていこうと話し合っています。ご期待ください。

　卒業後しばらくは忙しいと思いますが、どこか頭の片隅に社会学部同窓会のことを置いていただき、「先生どうしているのかな」というときに、ホームページを見ていただくようにしていただければ、と思います。卒業時に全員が加入する校友会では、3年後にパートナー組織の所属を聞かれますが、その際にはぜひ「社会学部同窓会」と書いてください。ぜひ、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。

（10月31日、社会学部A棟8階会議室にて）

教授登場

「学習権」から「成人教育運動」へ

荒井 容子 教授（社会教育実践研究）

　私は、人々が自らの「学び」に自覚的になり、「学び」を支えるシステムを求め、つくっていこうとするのは何故か、そこにどのような「学習」思想があるのか、ということに関心をもって研究してきました。市民の運動は「学習」を支えるシステムのありように大きく影響を受けます。そこで運動の担い手たちは時にそのシステムのあり方に自覚的になります。他方、市民の「学習」を「支える」システムは教育システムの一つですから、それ自体特定の権力構造の中でつくられます。従って教育システムに直接関わる者たちの中からも、そのあり方を問う運動が生まれます。こうした、社会運動と、それ自体社会運動の一つでもある教育運動（ここでは「社会教育運動」）とが響き合って、日本では70年代に住民の「学習権」という思想が生み出されました。85年のユネスコ国際成人教育会議で採択された「学習権」宣言は、日本ですでに広がっていた思想と響きあい、日本国内でも注目されました。

　しかし今、日本では、この学習権思想が忘れられてしまったかのような状況です。この間、調査して分かってきたことですが、実は85年のユネスコ「学習権」宣言は、70年代に世界で広がった生涯教育論とその施策が、陰りを見せた時期、国際的な成人教育運動組織が、成人教育の起死回生を願って同会議に仕掛けたものだったのです。

　こうした動向に向き合いながら、ここ10数年、私がもっとも関心をもって研究してきたのは成人教育運動の国際的なネットワークの動きです。歴史をたどり、現状も追っています。各国組織と、リージョン組織も含む国際的組織との関係、思想・運動に関する相互の影響と全体の構造を何とかつかみとりたいと四苦八苦してきました。国連への働きかけに運動を強く傾斜させている国際組織の今の動向も、懸念しつつ注視しています。

　「社会運動と成人教育運動」の関係を、このような研究を土台に描いてみたい。そんな「妄想」を抱えつつ、靄から抜け出たいともがいています。「かけがえのない学び」という感覚を、多忙な日々の中の卒業生のみなさんと共有できればと願っています。

2015 年 6 月 13 日　国際成人教育協議会第 9 回世界大会　全体会にて（カナダ・モントリオール大学）

2017 年 3 月中旬発行

知の史的探究――社会思想史の世界

監修　壽福眞美、編著者　柳啓明／千葉直美／奥谷雄一／島田昭仁
A５判・横組・上製・カバー付き　　予価 4500 円＋税

八千代出版株式会社　〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-2-13
TEL 03-3262-0420 、FAX 03-3237-0723
E-mail yachiyo-pb@yachiyo-net.co.jp
URL　http://www.yachiyo-net.co.jp/

「社会思想史ゼミ」で共に学んだ卒業生たちの論文集です。
私の最終講義の原稿論文にもご注目ください。

1976 年以来、学部・大学院の「社会思想史ゼミナール」で一緒に勉強した卒業生たちの論文集です。
内容は、社会思想史からヘーゲル哲学、地域学、社会学まで多岐にわたりますが、近・現代社会の問題と学問的に格闘し、よりよい未来社会を展望するする頼もしい論稿を寄せてくれました。私の収録論文「人類は生き延びていいか―社会思想史からの問いかけ（ego, empathy, eros, emotion, economy,energy, ecology）」は、2017 年 3 月に法政大学を定年退職する際の最終講義の原稿です。
たくさんのゼミ卒業生はもちろん、社会学部同窓会会員の皆さんも手に取っていただければ、とてもうれしいです。
法政大学社会学部教授　壽福眞美

＜本書の内容＞

Ⅰ編	社会思想史へのアプローチ	
1章	人類は生き延びていいか―社会思想史からの問いかけ	壽福眞美
2章	エロスの争い― 18 世紀末ブリテン急進主義と人口論	後藤浩子
3章	ホワイトヘッドの抱握（prehension）とはなにか―事態の潜勢態をめぐって	伊藤　守
Ⅱ編	ヘーゲルを読み直す	
4章	ヘーゲル哲学と外化 ―世界をトータルに把握する論理	滝口清榮
5章	若きヘーゲルの承認理論における労働と言語	高橋　良
6章	ヘーゲル 1820/21 年『美学講義』の絵画論と 19 世紀初頭の美術館	石川伊織
Ⅲ編	地域学に臨む	
7章	原発再稼働に関する意識調査―柏崎・刈羽村からの報告	伊藤　守
8章	近代琉球の「境域」と政治文化―与那国郵便局成立史	柳　啓明
9章	ソーシャルワーク論の地平―自己修復の優先性と代弁的発話行為	島田昭仁
10章	戦後西独における自動車中心主義の形成―その政治的根拠	田村伊知朗
Ⅳ編	社会学からの視点	
11章	他者との通路の回復―自我をめぐる社会思想	奥谷雄一
12章	「言語法廷」あるいは「言語ゲーム」？―「世界言語」構築の試み	戸原正法
13章	社会学的想像力―私的体験から見える社会学の世界	千葉直美

祝！箱根駅伝出場!!
目指せ！シード権入り

16年10月15日に東京・立川で行われた「第93回東京箱根間往復大学駅伝競争予選会」で、法政大学は第4位となり、本戦出場を決めた。

社会学部同窓会は1月3日（日）、箱根駅伝応援を兼ねた新年会を開く。陸上部OBで箱根駅伝に選手として参加経験のある中正美副会長・事務局長の解説付きだ。

集合時間と場所は12時30分、京浜急行電鉄・青物横丁駅下車、青物横丁交差点（法政大学のぼり旗が目印）。午後2時から新年会を開く。会場は「庄屋」青物横丁店（品川区南品川3の5の35、電話03・5460・7091）、会費は4000円（予定）。

参加申し込みはお近くの役員か事務局、または中事務局長まで（携帯090・8586・1242）

写真提供＝スポーツ法政新聞会
（法政大学陸上競技部ウェブサイト掲出の写真から）

法政大学の近況と直近の課題

常務理事・社会学部教授　増田　正人

みなさん、こんにちは。

14年度に始まる田中優子総長の新体制は、早いもので残すところ数か月となり、第一期が終わろうとしています。現在は、その第一期の仕事の取りまとめに入り、次期に向けた準備が始まっています。

「法政2030」と題した中長期計画は、4月に出された最終報告をもとにして、具体的な行動計画、実際のアクションプランの策定に入っています。現在、16の作業部会がアクションプランの最終報告を取りまとめ中で、12月、1月に、それぞれから最終報告が出されることになります。予定では、個別のアクションプランを取りまとめたうえで、年度末の3月に学内外に公表するという手順です。次期の理事会はその行動計画に基づいて一つ一つ着実に実施していくことが求められます。

キャンパスにかかわる問題では、市ケ谷キャンパスにおいて、新校舎である富士見ゲートが完成し、9月の秋学期から授業で使われ始めました。3階には、テラス席を持つ「つどひ」という学生食堂がオープンし、連日学生たちでにぎわっています。他方、511教室の解体が行われ、市ケ谷校地は大きく変貌中です。年が明けた17年からは、新校舎である南棟（仮称）の建設に着手し、この新校舎完成後の19年度から、55・58年館の解体工事を行う予定です。

多摩キャンパスも移転後30年以上経過し、建物その他の改修工事が順次行われています。工事期間中には一時解体された円形芝生もまたきれいな姿としてよみがえりました。また、交通問題のネックの一つだった相原駅前の整備も終了し、いなげや横ではなくて駅前から、法政大学行きのバスが発着できるようになり、大分雰囲気が変わりました。

これまでと同様、今後も温かいご支援をよろしくお願いします。

社会学部4年、青木智美さん「インカレ」で優勝
リオ五輪・競泳女子でも大健闘

「第92回日本学生選手権水泳競技大会」で優勝した青木さん（写真中央）
（写真提供＝スポーツ法政新聞会）

社会学部同窓会は2016年6月の定期総会で、リオデジャネイロ五輪・日本選手団「競泳女子800mリレー」代表、青木智美選手（社会学部4年、水泳部）の激励セレモニーを行い、青木選手所属ゼミの徳安彰教授・学部長に激励金を手渡した。リオ五輪では決勝で第8位の大健闘。青木選手からは帰国後、同窓会に丁寧な御礼の言葉も届いた。

なお、青木選手は、9月に東京辰巳国際水泳場で行われた「第92回日本学生選手権水泳競技大会（インカレ2016）」の「女子200メートル自由形」で優勝した。日本の女子水泳界をリードする今後の活躍に注目、応援しよう。

定期総会で五輪出場を激励
（左は青木さん所属ゼミの徳安教授）

参加レポート
京都で全国卒業生の集い
法政大学校友会

一般社団法人法政大学校友会（桑野秀光会長）主催の「第24回法政大学全国卒業生の集い（京都大会）」が11月12日開かれ、会場のウェスティン都ホテル京都に700人超のOB、OGが集結した。

記念講演では、利休居士第15代、千玄室氏（同志社大学法学部卒）が「一椀（いちわん）のお茶」と題し、儒教の教えである「五常」を紐解いた。次いで田中優子総長が登壇、「長期ビジョンHOSEI2030」と、大学憲章「自由を生き抜く実践知」について講演した。田中総長は新たに完成した新校舎「富士見ゲート」についても触れながら、法政大学のブランディング戦略を解説した。

懇親会には公務多忙な中、内閣官房長官の菅義偉氏（法学部卒）が駆けつけ、在学中のエピソードや政治家の道に進んだ経緯、菅氏が取り組んだ政策（ふるさと納税、ビザの緩和など）を詳しく紹介した。

最後に、次回開催地の宮崎県校友会に旗章が手渡されて閉会となった。

（中正美）

新年を祝う会に集いましょう
法政大学校友会

一般社団法人法政大学校友会は17年「オール法政新年を祝う会」を1月28日（土）、東京・お台場のグランドニッコー東京台場（旧ホテルグランパシフィック）で開催する。会費は1万2000円（同伴家族は8000円）。参加申し込みは社会学部同窓会事務局か、お近くの役員まで。

鈴木・大保会計事務所
公認会計士 税理士　鈴木　和男（旧姓和田）
事務所〒176-0012 東京都練馬区豊玉 5-7-4
TEL03-3993-2301　FAX.03-3392-8823
自宅〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 3-5-10 TEL048-421-5852
1954年3月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会 顧問
学校法人昭和第一学園 常任顧問
株式会社ふこく出版
取締役会長　森田　忠男
〒192-0903 東京都八王子市万町 34-1
TEL.042-622-6315
1956年3月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会
幹事　藤永　正順
自宅〒733-0815 広島市西区己斐上 3-3-28
TEL.082-272-5534
1957年3月卒　中島正ゼミ

TAK
TAKテナントビル業/マルカパーキング/パーラーあむ～る
代表取締役　加藤　照親
〒410-1127 静岡県裾野市平松 474 TEL.055-992-0052
E-mail：t-katoh@ksn.biglobe.ne.jp
1959年3月卒　笠原千鶴ゼミ

税理士法人 TMS 池袋本部事務所
税理士、社会保険労務士、行政書士
代表社員　後藤　次仁
〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-17-11
TEL.03-3982-8482 代 FAX.03-3988-8062
E-mail：t-gotou@tkcnf.co.jp
1959年3月卒　笠原千鶴ゼミ

村串　仁三郎　法政大学名誉教授　著
『高度成長期日本の国立公園』
――自然保護と開発の激突を中心に――
（時潮社、3500円）
1959年3月卒　長谷川博ゼミⅡ部

法政大学社会学部同窓会
土屋　幸雄
自宅〒194-0203 東京都町田市図師町 2224-4
TEL・FAX.042-793-5550
1960年3月卒　長谷川博ゼミ

東京・中野
近藤駐車場
近藤　栄一
駐車場：東京都中野区弥生町1-19-9
〒：331-0063
自　宅：さいたま市西区プラザ42-15
E-mail：eiichi_k@d2.dion.ne.jp
1961年3月卒　笠原千鶴ゼミ

東京実業有限会社
代表取締役　千葉　正顕
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-11-10 コハラビル2F
TEL・FAX.03-5577-3151 携帯 090-4415-2515
1961年3月卒　山本巌ゼミ

東西南北

会員の短信から

※卒業年は3月時点を記載しています。

【埼玉県】

越谷市
58年卒　横山　隆一

「社会は法政」から「法政は社会」応援団、神宮から箱根へ。リーダーに期待大。6月11日、ボアソナードタワーで、同じ歳だが一年先輩（小生一浪）のお二方を紹介され、ありがとうございました。お一人は渋谷本町、お一人は遠路広島からでした。
（村山重忠ゼミ）

【千葉県】

千葉市
57年卒　宮辺　富宏

（前号の「歴史と文化」欄への感想）日本国の君が代と、日の丸の旗を揚げない卒業式は淋しかった。校歌斉唱より君が代を最初に歌うべき。なぜ国旗と国歌がなかったのか知りたい。
（村山重忠ゼミ）

船橋市
67年卒　庭野（旧姓　仲本）　眞佐子

最近、長年の知り合いにひょんなきっかけで、「私は」法政大学卒」と話しました。相手は目を丸くして「そんな大学を出ているの？」と言いました。「そんなって、どんな意味？」と聞きたかったのですが…。今は総長は女性、女子学生の比率も大きく増加して隔世の感があります。
（北川隆吉ゼミ）

【東京都】

文京区
80年卒　保坂　正紀

60才定年まであと1年半になりました。お陰様で元気にやっています。テレビ朝日報道局勤務。
（須藤春夫ゼミ）

小金井市
71年卒　池内　清二

クラスの仲間4人で5月29日～31日、広島、宮島、津和野、萩の小旅行をしました。
（北川隆吉ゼミ）

小平市
79年卒　八塚　明憲

日本水泳連盟専務理事に78年卒の坂元要氏が就任。リオの水泳チームリーダーです。
（田沼肇ゼミ）

【神奈川県】

横浜市
79年卒　中村　裕昭

同窓会報、いつも届くと大変うれしく、興味深く読ませていただいております。私たち79年3月卒業生は、今年60歳になります。会社は「定年」になりますが、年金支給はされない世代、いろいろ活動したくても、しばらく働くことになりました。気楽に交流出来る「サロン」的な「場」を作りたいのですが、もうすこし先になりそうです。
（安江孝司ゼミ）

横浜市
84年卒　鈴木　康功

同窓会報で55年館及び58年館の全面的な解体との報に接し名残り惜しい気持ちで一杯でした。今年の同窓会定期総会時（16年6月11日）に「お別れ見学会」開催の件も知りましたが当日都合がつかず残念に思っていましたが、同期の春日君、森君及び浅井君と5月21日（土）に久々に飯田橋で会食してその後、55年館及び58年館を巡りました。私たちが学んだ懐かしい校舎に御礼を申し上げそして別れを告げました。その後、神楽坂での二次会になりました。飯田橋も神楽坂も随分変わりました。私たちが「木曜研究会」としてコンパを開催した居酒屋は無くなっており卒業して30余年の時の流れを感じました。一方、新校舎が出来、また多くの後輩を社会に送り出すことでしょう。「おおわが母校、永遠なれ！」
（秋田成就ゼミ）

川崎市
63年卒　会田　良

毎年2～3回旅行に出掛けているが、今回は、北海道の道央、道西方面へ。人生目標を持ち、チャレンジ精神は大事。年と共に体力や頭も衰えるので、散策や脳トレを取り入れることが、若返りの秘訣である。健康に気をつけることは早いとか、遅いとか、気がついた時に実行することである。
（増島宏ゼミ）

藤沢市
74年卒　内田　宏

再雇用の期間も、平成28年度（16年度）末で終了します。卒業してから43年間の勤務でした。この間、うれしい事もたくさんありましたが、悲しい別れもあり、人生山あり谷ありを実感しています。在学生の諸君のご健康と躍進をお祈りしています。
（湯川和夫ゼミ）

【静岡県】

静岡市
75年卒　尾国　健一郎

1975年卒、石川ゼミの皆様、そろそろ同窓会いかがでしょうか。
（石川淳志ゼミ）

【長崎県】

諫早市
71年卒　山﨑　浩志郎

5月末に、応経Aクラスの級友3人（東京から）と、JR広島駅で落ち合い、2泊3日の旅をしました。オバマフィーバーの2日後の平和祈念資料館で、修学旅行の小学生の一団と会い、「戦争」についてのアンケート調査を受け、戦争とは市民の生命と暮らしを奪いさるものなどと、4人で一生懸命答えたことが、旅の思い出として残っています。
（船山榮一ゼミ）

お気に入りの写真から

平野ゼミ、中野ゼミの同期が集う

76年卒　桑原　政昭

55・58年館ピロティの前で記念撮影

そろそろ年金をもらう年頃になった、平野秀秋ゼミと中野収ゼミの同期の有志が、10月の週末に母校で集まりました。

集まったのは広島から島村誠（テレビ局）、辻井正典（テレビ局から国家公務員）新潟からは戸川進（広告代理店）東京は堀米一裕（広告代理店）、橋本雅夫（教員）桑原政昭（広報団体）の6名でした。

一行は、まずボアソナードタワーに昇り、付近の景観を愉しんだ後、工事中の校舎を散策して、当時との比較をしながら、リニューアルされる母校に別れを告げ、神楽坂へ。

行きつけだった喫茶店「軽い心」や映画館「佳作坐」がなくなっているのを確認しつつ、飲み会を開催しました。

当日は、ちょうど日本シリーズの第1戦がはじまるその日だったので、なんと広島のお好み焼き屋が会場となり、熱気に閉口しつつも、昔話と近況報告に花を咲かせ、二次会、三次会と夜は更けて行きました。（平野秀秋ゼミ）

私論公論

TPPからこの国の政治を考える

黒部　清明

85年卒、中林賢二郎ゼミ

日本がTPP交渉に参加したのは民主党政権下でのこと。そして自民党は、2012年総選挙で「ウソつかない。TPP断固反対。ブレない」と公約して政権に復帰した。ところがいま、TPP参加12カ国の中でいちばん批准に前のめりになっているのがこの国の政府つまり自民党安倍内閣。重要農産五品目は「聖域」とするとの公約も、農林水産大臣自らが「無傷のものは一つもない」と認めるなど公約違反を平然と開き直る始末。しかもTPP交渉はいまだかつてない秘密主義だと言われており、この春、政府が通常国会で提出した「黒塗り資料」にそのことが如実に示された。臨時国会でも、協定の誤訳に加え、輸入米価格の偽装が発覚して政府のTPP影響試算と対策のデタラメさが明らかになった。

市民生活のあらゆる分野に、そして地域経済に大きな打撃が懸念されるTPP協定。「自由貿易」の実現などというのは真っ赤なウソ。自由などではなく強者（多国籍企業）による管理された貿易に他ならない。それでも批准を強行…、となると「この国の民主主義はいったいどうなっているのか」という素朴ではあるが、深刻な不安を抱かずにはいられない。この国、ウソとゴマカシの政治手法が平然とまかり通るほど政治家の劣化は進んでいる。

そうした中で、あらためて私たちは「自由と進歩」は、ひとり一人の市民的自覚によってこそ実現されることを肝に銘じよう。（全農協労連　書記次長、10月21日執筆）

新入会員の紹介

（受付期間　16年5月～10月）

小島　拓海（16年卒）、小島　健（96年卒）、
坂田　裕香（03年卒）、佐野　健太（16年卒）

すき焼き・しゃぶしゃぶ・フランス料理
創業明治5年 伝統の味と風情をご堪能下さい
吉寅
吉崎　秀夫
埼玉県川越市元町1-9-3（市役所通り）
TEL. 049-222-0102
1961年3月卒　逸見重雄ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任顧問　中山　重臣
自宅〒242-0008 神奈川県大和市中央林間4-29-14
TEL・FAX. 046-275-3022
1961年3月卒　土生長穂ゼミ

柏市地域づくり推進委員会 委員
法政大学社会学部同窓会
常任理事　中村　一廣
自宅〒277-0086 千葉県柏市永楽台3-8-3
1961年3月卒　増島宏ゼミ

一般社団法人法政大学校友会 代表議員
群馬県支部高崎支部
支部長　柳澤　昭吉
自宅〒370-0824 群馬県高崎市田町141-1-1101
TEL. 027-321-7308
1964年3月卒　佐藤毅ゼミ

法政大学社会学部同窓会
濵名　達
自宅〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井988
TEL・FAX. 042-597-0135
1965年3月卒　北川隆吉ゼミ

シャカイ人 OB・OG

洋書輸入書店　勤務

滑川 信行さん

応用経済学科　83年度入学
五十嵐仁ゼミ

本に関わる仕事、大学での学びから

私は法政大学を出て、社会科学専門の洋書輸入店に勤めて早30年近くになります。海外からの新刊学術書、古書、その他様々の出版物を取り扱っており、最近では電子商品が増えているのが特徴です。

振り返ってみれば、やはり大学時代というのはかけがえのない時期で、貴重な経験をさせていただいた法政大学には感謝の気持ちを強く感じています。

最初、中林賢二郎ゼミに所属し、先生が亡くなられた後は五十嵐仁ゼミに参加することになりました。お二人の先生のゼミに参加したことで社会・労働運動に関心を持つようになり、就職後も職場の組合の執行部や出版関係の労働団体の役職に携わるようになりました。大学時代のゼミでの学習が役に立ちました。五十嵐先生には、大学を出た後も、私が組合などで主催した会で何度か講演をお願いし感謝しています。つい先日も、ある会に参加させていただきましたが、いつでも人を惹きつけるお話に感銘を受けているところです。

私がこうして本に関わる仕事を長らく続けられたのも、大学で学んだことが大きかったと思います。先生方だけではなく、先輩や友人のなかにもよく本を読まれている方がたがおり、少なからず影響を受けました。社会科学系の書籍に魅力を覚え始め、マルクス主義関連の文献に触れることができたのも大学時代でした。

私が就職した頃は、まだソ連・東欧崩壊の前で、東ドイツからまとまってマルクス・エンゲルス全集などを輸入したこともありました。今や日本ではマルクス主義関連の書籍はなかなか売れませんが、最近では、中国でマルクス研究が盛んになりつつあり、書籍についての相談を受ける機会も出ています。

昨今、出版の世界が厳しいとよく聞きますが、私たちの洋書の業界も例外ではなく、残念ながら廃業に追い込まれる同業者も少なくありません。こうした厳しい時代を迎え、変化に対応し、新しい課題の挑戦に模索しているところです。

【訃報】

社会学部第一期生、中大路満喜子さんを悼む

中大路満喜子さんは1920年（大正9年）6月生まれ、享年96歳だった。戦争の時代に青春を過ごし、戦後は労働組合運動に参加する中で学習意欲を燃やし、社会学部の前身である中央労働学園大学社会学部に入学した。そして、51年の同大と法政大学の合併により法政大学社会学部の学生となった。まさに社会学部第一期生である。

在学中に品川区議（日本社会党）となり、その後、都議会議員としてもご活躍され、議員活動を終えて以降は品川区の教育委員に就任（73～85年）するなど、要職を歴任した。社会学部同窓会では最長老の先輩として常に後輩を励ましてくれる存在だった。14年3月の「田中優子先生をお祝いする会」にも出席され、「初の女性総長誕生」を喜び、激励した。同年6月発行（第44号）の社会学部同窓会報は、中大路さんのロングインタビュー記事を掲載、戦後民主主義と共に歩んだ人生を会員に伝えた。

そのインタビューの最後に、私は「今の時代に対して気になることはありますか」という質問を投げかけた。主権者としての自覚あふれる頭脳明晰な言葉がすぐに返ってきた。このラストメッセージを紹介して、哀悼の意としたい。合掌。

（土川新吾）

「私は、戦後に新憲法（日本国憲法）が施行されたときはあまり関心がなかったのですが、憲法9条のことは今、とても気になります。みんな、もっと危機感をもっていいのではないか。戦争の時代に近づいているのではないかな。戦争というのは、これからやるぞ、と宣言して行われるものではないのです。まず、敵を作り、知らないうちに世の中の大勢を（戦争をする方向に）もっていくもの。普通の人はなかなか気づかないものです。そういう方向にしてはいけない、と思うのです」

「田中優子先生をお祝いする会」で優子先生と会話する中大路さん（撮影・郡司貴志）

追想・私の法政大学

高揚したあの頃、未燃の火種　今も心に！

松井 睦夫さん

58年3月卒業　増島宏ゼミ
56年　明治学院大学より社会学部Ⅱ部3年次編入

1953年、東京の生活困窮者街の不登校児への学習支援が私の最初の社会活動でした。明治学院在籍の頃で、社会的弱者への慈善奉仕は信仰者の使命との思いに背中を押され、同時にそれは明学の大先輩　賀川豊彦氏への憧れにもつながっていました。しかし、当時の社会には激動する時代を背景に激しい政治思潮の論争もあり、その流れに呼応するかのように学生運動も高揚期を迎えていました。「学生の選挙権の行使を郷里の自治体に戻す」との自治省通達が出されたのもその頃で、学生はこれに激しく抵抗し、私もこの時初めてデモ行進を体験しました。

これらの社会的刺激は穏健を是とする日常に強い左傾圧力となって私の心中にも押し寄せ、「慈善」の座軸は激しく揺さぶられる日々が続きました。キリスト教神学とコミュニズムとの共存を説く牧師の説教に触れたく代々木上原の教会にも足繁く通いました。私の内に芽生えた変化はやがて社会科学への憧れに膨らみ、56年、法政大学社会学部に転入しました。

法政の学内は著名な教授陣がきら星の如く輝き、学界、思想界をにぎわす思潮論争も反映され、新入りの私の目には百花繚乱の大輪に見えました。時代を斬るテーマにも鋭敏に反応し、刺激に満ちた学究的な雰囲気が漂っていました。部活は迷わず社研と決め、増島教授からは「家族、私有財産及び国家の起源」の精読を通じて懇切な卒論指導を受けました。テーマは「社会主義へのイタリアの道と共和国憲法を巡る理論問題」と定め、コミンテルンとは回路を異にするユーロコミュニストたちの新規な思潮への接近を試み、バイト疲れの睡魔と格闘しつつ50枚を物して58年春に卒業しました。

思えば、私の法政は自己形成期の精神的飢餓を満たすために駆け込んだ安住の学び舎でしたが、その2年間に得た交友や学習体験は私の後半生の貴重な道標ともなりました。特に学究への情熱や確かな研さん姿勢は村串仁三郎氏との交友を通じて教えられ、その体験の重みを振り返ることしばしばです。バイトと学業のバランスに苦慮し、見果てぬ夢を残しましたが、その未燃の火種は未だに私の内でくすぶり続けているかのようです。

現在は趣味も兼ね、クラシック系音楽サロン「夢・汎（ひろ）ホール」を浜松市で経営しています。

法政大学評議員
株式会社新潟放送
代表取締役社長　竹石　松次
〒950-0972 新潟県新潟市中央区新和 3-12-6
1966年3月卒　佐藤毅ゼミ

法政大学社会学部同窓会
理事　塩田　利明
1967年3月卒　土生長穂ゼミ

法政大学大学院 教授
連帯社会インスティチュート・運営委員長
ＮＰＯサポートセンター　理事長
法政大学社会学部同窓会
副会長　山岸　秀雄
大学研究室 TEL・FAX. 03-3264-4704
NPO サポートセンター 東京都中央区銀座 8-12-11
TEL. 03-3547-3206
1969年3月卒　佐藤毅ゼミ

人材形成研究所代表
結婚相談所３愛ネットクラブ
東京法政ライオンズクラブ　前会長
法政大学社会学部同窓会
常任理事　水上　久忠
携帯 090-4077-1223　自宅 TEL・FAX. 03-3787-3476
2002年9月卒　法政大学大学院社会科学研究科経営学専攻
1970年3月卒　高橋精之ゼミ

学校法人中央学園
中央福祉医療専門学校
理事長・校長　宮杉　早苗江
本部〒323-0022 栃木県小山市駅東通り 2-24-28
TEL. 0285-24-1571　FAX. 0285-24-2522
E-mail：msanae@peach.ocn.ne.jp
http://www.chuo-fukushiryou.ac.jp
1970年3月卒　田沼肇ゼミ

ミサワホーム株式会社
代表取締役社長　竹中 宣雄
〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
TEL. 03-3345-1111（代）
1972年3月卒 中野ゼミ

学生に戻って学び続ける「社会と人間セミナー」開催報告

9月24日（土）午後、市ケ谷キャンパス外濠校舎2階S201教室で16年度の「社会と人間セミナー」が開かれた。卒業生の知的好奇心に応え、社会学部同窓会が毎年企画しているもので、今回は徳安彰学部長・教授が最近の研究から「原発事故と社会リスク」をテーマに授業を行った。

徳安先生は、福島第一原発の事故を例として、リスク問題の構図を社会システム理論の枠組みで解説し、リスク・アセスメントにおける市民参加の問題について考える場を提供した。社会は絶対的な安全を求めるがゼロリスクはありえないこと、リスク・アセスメントへの市民参加により、市民も自らリスクをとらなければならない、という指摘もあった。

社会学部といえばゼミ。出席者13名が大学生に戻って学ぶ機会となった。講義はとてもわかりやすく質疑応答も活発に行われた。まさにゼミの雰囲気でそれぞれのスタンスから発言があった。

終了後、飯田橋に移動、先生を囲んで懇親会が行われた。「ゼミコンパってこんな感じだったなぁ」、「とても満足！」、「生涯学び続けることは大切」などの感想が出され、社会学部の先生方のリレー方式で開催する本企画の開催意義に確信を深めた。

社会学部同窓会では、今後もこのようなホームカミング企画を実施していく。会報やウェブサイトなどで告知するのでぜひご参加を。（依田素味）

ゼミコンパの雰囲気で交流（飯田橋）

先生の最新の問題意識、研究内容を聞く

14年3月卒業生のみなさん　パートナー組織の選択は「社会学部同窓会」を！

法政大学校友会の発足と同時に、14年3月以降の卒業生は全員が校友会の会員となっていますが、14年3月卒業生（13年度同期会）の皆様は17年4月よりパートナー組織の所属変更が自由に行えるようになります。そこで、社会学部同窓会からお願いです。校友会よりパートナー組織選択の意向調査が来た際には、「社会学部同窓会」の選択をお願いします。社会学部同窓会は、社会学部教授会と連携し、社会学部の発展をめざし、在学生から卒業生までを豊かなコミュニケーションで結んでいく学部同窓会です。全学の卒業生を組織する校友会の健全な発展のためにも重要な役割を果たしていきたいと考えております。迷いなく「社会学部同窓会」を選択されることを強く呼びかけます。

ゼミを軸に卒業生の集い　準備で協業を確認

教授会執行部との懇談会

社会学部同窓会では4月18日に続き、9月5日に今年度2回目となる教授会執行部との懇談会を行った。

徳安学部長から「秋学期も様々な場面で同窓会の協力を頂くこととなるが、よろしくお願いしたい」という挨拶があり、中正美事務局長の司会進行で、「社会と人間セミナー」「箱根駅伝予選会応援」「卒業祝賀会」など具体的な計画について相互確認を行った。

同窓会の高橋敏会長からは、「来年17年度の同窓会総会は、会報50号記念ということもあり、より多くの同窓生に参加してもらうために、『先生に会いたい！DAY』（仮）のような企画を実施したい」という提案を行った。17年6月10日を予定、新校舎「富士見ゲート」見学会の企画も含め、準備委員会を組織して具体的な検討に入る。退職された名誉教授、現職の先生方にも多数出席いただき、社会学部の歴史を振り返りつつ、現在の多摩キャンパスの様子までリレー形式の映像でつないでいく。参加者動員のために、60歳定年を迎えた世代に対してアプローチを強化する。そして、「ゼミの社会学部」を後輩たちにつないでいく企画に関して、これまで以上に教授会と同窓会の連携強化を確認し、和やかなうちに約1時間の懇談を終えた。

今回の懇談会には、教授会執行部から徳安彰学部長、斎藤友里子教授会主任、吉村真子教授会主任、樋口明彦教授会副主任、同窓会側からは高橋敏会長、中正美副会長、水上久忠理事、麻生幸俊理事、依田素味理事が出席した。（依田素味）

教授会と同窓会の結束を確認し記念撮影

経済学部同窓会主催

ドイツ旅行同行記

経済学部同窓会（経友会）主催のドイツ旅行に行ってまいりました。経友会は毎年海外旅行を実施しており、私は昨年のポルトガル・スペイン旅行に続き2度目の参加です。ドイツはユルゲン・ハーバーマスを始め著名な社会学者を数多く輩出している国、また、日本とドイツの歴史的関係は何よりも深い関係があります。東西ドイツの統合後のドイツの経済発展やメルケル首相の活躍は大変興味深いものがあり、出かける前からワクワクしていました。

今回は5月18日から26日までの7泊9日、16人の参加でした。ベルリン観光ではベルリン大聖堂、ブランデンブルク門、ルプレヒト・カール大学、ハイデルベルク大学を巡り、ケルンではケルン大聖堂など世界遺産を見学。リューデスハイムからライン川クルーズ、ロマンチック街道遊覧を楽しみ、法政大学の協定校フンブルト大学を訪問、森鴎外記念館見学。さらに、フランクフルトのレーマン広場、ゲーテハウスを見て歩き、ドイツ校友会との交流も行いました。

ドイツは、どこも街並みが綺麗で、花や樹木がたくさん植えられていて、自然環境整備に力が込められていると、想像以上に刺激されて感激しました。（水上久忠）

ブランデンブルグ門の前で記念撮影

狭山茶・川越いも
江戸屋 弘東園
代表 伊東藏衛
〒354-0045
埼玉県入間郡三芳町上富1388
電話 049(258)2711(代)
FAX 049(258)2145
E-mail:edoya@maple.ocn.ne.jp
第54回 農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞

当店の商品は、お電話、FAX、メールでも御注文・御予約頂けます。
詳しくはホームページをご覧下さい。
http://www.edoya-koutouen.com/
紹介者：同窓会副会長（事務局長）中正美

株式会社 コロンバン
代表取締役社長 小澤 俊文
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-31-19
TEL. 03-3409-2301 (代)
1975 年 3 月卒　庄司ゼミ

法政大学社会学部同窓会 理事
司法書士・行政書士 木村事務所
司法書士 木村 誠
〒101-0046 東京都千代田区神田多町 2-7 翔和多町ビル 2 階
TEL03-3256-7058 FAX. 03-3251-2205
E-mail : cau30510@pop21.odn.ne.jp
1977 年 3 月卒　土生ゼミ

法政大学社会学部同窓会
副会長 中 正美
TEL.090-8586-1242
E-mail:qqkt5de9k@mocha.ocn.ne.jp
1975 年卒

法政大学社会学部同窓会
会長 髙橋 敏
TEL. 090-1802-2908
E-mail:binta2908@ezweb.ne.jp
1978 年 3 月卒　金山行孝ゼミ

55/58 きおくプロジェクト
吉川 新吾
E-mail : shingo-y@festa.ocn.ne.jp
1987 年 3 月卒　田中義久ゼミ

特定非営利活動法人（NPO法人）教育サポートセンターNIRE
代表
特別支援教育士（S.E.N.S）
中塚 史行
〒142-0053 東京都中延 5－6－14第一亀田ビル 2 F
TEL/FAX 03-3784-0450 メール info@npo-nire.org
1995年 3 月卒　土生ゼミ / 法政大学社会学部同窓会理事

定期総会記念講演会／長距離に強い法政をつくる！

陸上競技部　駅伝監督　坪田　智夫　氏
（社会政策学科、2000 年 3 月卒）

私は在学中３回箱根駅伝に参加、卒業後は、コニカミノルタに入社しました。全日本実業団駅伝（ニューイヤー駅伝）で３年連続優勝、５回優勝を経験しました。そして、13 年４月、母校の陸上競技部　駅伝監督に就任しました。

私には指導者として２つの目標があります。一つ目は、箱根駅伝で優勝することです。二つ目は、学生のうちから日本を代表する選手を長距離で出したい、ということです。

朝練習は５時起床で５時 40 分から 15 キロ走ります。朝 30 キロ走るときは４時台起床です。そして、午前～午後と授業を受けて、夕練習は午後５時 40 分から７時 30 分まで、15～20 キロ走ります。一日平均 30 キロ走るわけです。夏合宿の分も入れると月間 1000 キロ走ります。それくらい走らないと、レベルが高くなった箱根駅伝には追いつかないのです。本番だけでなく予選会のレベルも高くなりました。練習を質量ともに上げていかないといけませんが、故障と隣合わせです。疲労骨折なども起きます。

練習はとても厳しいですが、皆さんから応援されるチームであること、大学から絶大なバックアップを受けていることを忘れてはいけないと、選手たちにいつも話しています。

さて、箱根駅伝　第 93 回大会ですが、支えてくださる方々の思いを理解して、頑張らないといけないと、選手たちに繰り返し話しています。法政の応援は力強いです。旗も途切れることがありません。厳しい声も含めて、多くの方の支援をいつも実感しています。まずは、シード権争いに確固として加わること、そして少しずつ順位を上げていきたい。いつか優勝を果たしたいです。

魅力ある活動が第一、役員の若返りも課題

16年度定期総会

16年度定期総会は6月11日、市ケ谷キャンパス55年館561教室で開かれた。出席者は会員38人、来賓9人、計47人だった。総会の議事に先立ち、今夏のリオデジャネイロ五輪の日本チーム水泳選手に選ばれた社会学部4年生で徳安彰ゼミ所属の青木智美さん（水泳部）に激励金の贈呈を行った。

総会では、活動の活性化、会費納入会員の増加と役員の若返りの意義について認識の共有化を図った。

第3号議案では、役員会の運営を機能的にするため、理事を常任理事と理事に分け、理事に就く方は総会前の総会議案討議の役員会にだけ出席してもらい、日常的な運営は毎回役員会に出席する常任理事を中心に行う会則改訂を提起した。第4号議案では、17年6月の定期総会時期に、会報50号記念行事として魅力的なイベントを開催し、広範な卒業生の結集を狙うことや、全卒業生視野の活動にしていくために、会員の呼称について、「会員」は全卒業生とし、会費納入者を「正会員」と呼ぶことの確認が提案された。

また、総会時点の会員数については実数字を報告した。2016年3月末の会員数（社会学部卒業生の総数）は4万5368人であり、このうち「正会員」（過去5年間に1回でも会費を納入した会員）は561人ということだった。

なお、一般社団法人法政大学校友会で、社会学部同窓会を「本籍」とする校友会永久会員数は50人であり、「会員が高齢者が大半であることを考えると、社会学部同窓会を本籍とする校友会永久会員を意識的に増やしていかないと、永久会員40人に対し1人の割り当ての校友会『代表議員』を選出できなくなる」という問題意識も投げかけた。

定期総会に先立ち行われた 55・58 年館お別れ見学会。日本建築学会賞を受賞した校舎の値打ちについて、建築学科卒の岡崎浩司氏からレクチャーを受けた。

これらの議案については、「会員の呼称の提案を会則で規定しなくて良いか」、「会員拡大を進めるうえで、参加して良かったと思える会にすることが第一では」といった質問と意見が出された。高橋敏会長は、「おっしゃる通り」、「活動の中身を変えないと、人は集まらない」、「役員の高齢化も進んでいる、活性化のためには役員の若返りも必要。皆様にはぜひ若い世代の紹介をお願いしたい」と答弁した。このほかに質問・意見は無く、拍手で承認した。

第6号議案（新役員案）では役員会の理事任務を、常任理事と理事に明確に分け、機能化を図る一方、事務局長を務める副会長への任務集中を避けるため、各副会長が総務部、広報部、事業部、渉外部の責任者となり、自覚的に活動を推進する「部制」の導入と担当が提案された。異論はなく拍手で承認した。

総会、記念講演会終了後、恒例の懇親会がボアソナードタワー25階で行われ、参加者は旧交を温めた。

寄付者ご芳名

16年5月～10月末（敬称略）

皆様から寄せられましたご厚志を心から感謝いたします。会の貴重な運営費として活用させていただきます。

1口
松井　祐次郎
澁澤　知宏
松井　睦夫
小泉　栄一
内田　昌宏
高野　忍
神　順子
小林　恭久
宇佐美　貴
栗原　政實
加美　越生
鯰江　実
数土　清治
小花　唯男
中山　重臣
会田　良
宮本　徹
悦子
田南　一郎
八塚　明憲
古川　育男
岩崎　久美子
加藤　照親
春山　忠男
郷久保　博
西脇　和彦

2口
村上　良三
嶺　学
久保田　和幸

3口
新村　武彦
杉本　昇

7口
笠原　邦丸
藤田　慎介

10口

南会津のきれいな星空を観たくなったら
のんびりブナの森を散歩したくなったら
ナチュラリストの活動拠点
自然に癒される宿
フィールドイン楓林舎
環境・自然・天文・野鳥関係書籍、図鑑等多数
代表　三野輪真明（社会学科 1979 年 3 月卒 金山ゼミ OB）
〒967-0026　福島県南会津町（旧田島町）針生昼滝山 857-27
TEL 0241-64-2535　URL：http://fuurinsha.eco.coocan.jp

無煙ロースター・空調システムのパイオニア
東，産業株式会社
東は業界 No.1 商品・環境・サービスをご提供します。
脱臭くん
取締役副社長
河村勝弘
Katsuhiro Kawamura
mobile:080-3259-4708
1963年3月卒　土生ゼミ（応用経済卒の方連絡乞う）
無煙ロースター http:// 無煙ロースター .jp　“募集” 現場管理 35 才迄
http://www.8929.co.jp　E-mail:info@8929.co.jp
〒124-0011 東京都葛飾区四つ木 3-7-12　TEL.03-3694-6392 FAX.03-3694-6720

働きながら学び、研究者の道へ
わが人生を振り返る

村串 仁三郎　1959年3月卒
法政大学名誉教授

最近の筆者

最後の著作を出版

一昨年80歳になって最後の著作『高度成長期日本の国立公園―自然保護と開発の激突―』（時潮社、三五〇〇円、私の国立公園3部作の第3弾）を出版して、これで私の研究生活にピリオドを打つことにした。

思えば、小中高と劣等生であった私が、学問を志すようになったのには、二人の師との出会いがあった。高校生の時に出会った恩師は、講座派の末席に名を連ねていた玉城肇の長男だった玉城徹先生である。

私の通う高校の国語教師であった玉城先生は、劣等生の私を励まし、社会的に目覚めさせてくれた。私を感動させた玉城先生のアドバイスは、一人が一〇〇歩進むのでなく一〇〇人の大衆が一歩進むことの重要性を説く哲学者柳田謙十郎の有名な意見を批判して、「村串君一人が一〇〇歩進むことも重要なのだよ」と教えてくれたことである。爾来、私は、頭はよくなかったが、人一倍時間をかけて学び、人より前に進むように心がけてきた。

18 歳の自画像

プロレタリア文学に傾倒し作家になりたいと思い、工場労働者になるべきだと考えたが、あまりに無知無学のまま工場に入っても小説など書けるわけないと思い悩んだあげく、法政大学社会学部二部（夜間部）に入学し働きながら勉強することにした。

社会学部で出会ったのが二番目の恩師、長谷川博先生であった。爾来、長谷川先生に私淑し、先生の負担で京都の社会政策学会に連れて行ってもらったり、何時しか小説家になることをあきらめ、学問に興味を抱くようになった。長谷川ゼミの、東大大学院に進学した松島春海（後に埼玉大学教授）先輩に刺激を受け、学生自治会に参加し、私なりに勉強に熱中した。

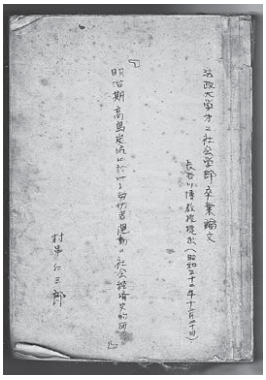
長谷川先生宅にて

自治会活動と広範な猛勉強

大学受験や就職のために学ぶのでなく、学びたいことを学ぶことの楽しさを初めて知った。ほとんど大学の授業には出席せず、必要な単位を適当にとって長谷川先生のゼミだけ出席し、学生自治会運動の傍ら当時大学生にとって必要な学問や広範な社会政治経済問題を自分なりに猛勉強した。

ゼミで先生から学んだ最大のことは、長谷川先生の口癖だったオリジナリティということだった。当時の左翼学生の性癖は、マルクス、レーニン、スターリンの言質を一字一句信仰する風潮であった。そうした風潮に従っていた私に衝撃を与えたのは、ソ連共産党によってスターリン信仰が崩壊させられたことであった。これまで信じてきたスターリンが批判されて何を信じていいのかノイローゼになった私は、すべてを疑えというマルクスの金言を知って、他人の意見を安易に信じることなく、どんな小さな文章でも話す言葉でも自分で考えて書き言葉を発することを決意した。

私は、ゼミの先輩のテーマだった明治時代に最大の社会問題となった高島炭鉱の鉱夫虐待問題を引き継いで卒論を書くことにした。そして他人の意見を安易に信じてきた自分を反省し、丸々一年をかけて、なるべく原資料にあたり、新たに資料を発見し、ものまねをいっさい排し、自分の頭で考え、自分の言葉で卒論を書いた。


卒論

あるコネを利用して原資料を求めて高島炭鉱に行って、当時はコピー機などなかったから、発見した資料を寝ずに筆写して帰った。四〇〇字詰め原稿用紙三〇〇枚の卒論ができた。長谷川先生は、「よく書けたね」と褒めてくれた。

私は卒論で、当時一世を風靡していた講座派の総大将山田盛太郎の『日本資本主義分析』で主張された高島炭坑論を事実に基づいて批判的に論じ、長谷川先生の指摘するオリジナリティのある論文を書くことができた。後にこの卒論は、経済学部の助手募集に提出して、教員に採用されるきっかけとなった。

「法政・社会」出身は私の誇り

私にとっては、大学とは師を求め、師から学べるだけ学び、師をも超えようとする場であった。

経済学部同窓会には創設以来係わってきたが、2005年、大学を定年退職するのを機に、自分が社会学部出身であることの誇りを確認するために社会学部同窓会に加入し、OBとして微力ながら活動してきた。

社会学部同窓会の総会にて先輩方と

一般社団法人 法政大学校友会

終身会員募集中！（終身会員 30，000円） 詳しくはお問い合わせ下さい。

http://www.hoseinet.jp　法政大学校友会　検索

会　長　桑野秀光
副会長　佐々木郁夫　井上泰一　豊田信哉
小林清宣　五明公男

監事　矢部豊
山嵜正俊
発地敏彦
小川浩幸

事務局　〒102-0073　東京都千代田区九段北3-2-3　九段校舎４階
ＴＥＬ 03-3264-1831 ＦＡＸ 03-3264-4770　E-Mail：jimukyoku@hoseinet.jp